

# 野鳥だより

—北海道—

ISSN 0910-2396

北海道野鳥だより第196号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 2019年6月21日

## アメリカカヒドリ



2019. 4. 3 札幌市北区

撮影者 辻 雅 司 (札幌市北区)



# も く じ

## オオジシギ保護調査プロジェクト

公益財団法人日本野鳥の会	竹前 朝子	2
ロシア極東・鳥紀行(5)	美唄市 藤巻 裕蔵	4
冬鳥があまり来ませんでした —18/19冬—	広 報 部	7
コアカゲラ —野幌森林公園初記録!!—		
	埼玉県越谷市 小林 正康	8
表紙の鳥 (アメリカヒドリ)	札幌市北区 辻 雅司	8
2018年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録 (2018.4~2019.3)		9
2019年度総会報告		12
探鳥会ほうこく		14
探鳥会あんない		16
鳥 民 だ よ り		16

※本誌に掲載する写真のカラー版は、当会ホームページ(<https://aigokai.org>)で閲覧することができます。

## オオジシギ保護調査プロジェクト

公益財団法人日本野鳥の会 竹前朝子

春先に畑や牧草地でズビヤーク、ズビヤーク、ザザザーと音を立てて急降下する独特のディスプレイフライトを見せるオオジシギ(写真1)。北海道の方にとってはなじみの鳥かもしれません。しかし、派手なディスプレイの割にその生態については調査例が少なく詳しい実態はわかっていません。

この鳥は、日本とロシアの一部のみで繁殖し、繁殖地の大半が北海道に集中しています。環境省のレッドリストでは本州での生息地の減少という理由で準絶滅危惧種(NT)に選定され、2014年のレッドリストでは北海道でも減少が報告されていると記載があります。また、生息地が森林化や開発行為等によって失われやすいと考えられ、オオジシギを調べて保護することは、他の草原・原野環境

に生息する鳥類の保護につながります。そこで、日本野鳥の会では、2016年、オオジシギの現状を調べ、生息地の保全に取り組むプロジェクトを立ち上げました。当会の拠点がある苫小牧市の勇払原野周辺が渡りの重要な地点であることもオオジシギを対象種に選んだ理由のひとつです。

### ニューギニアまでノンストップ

繁殖を終えたオオジシギは、越冬地であるオーストラリア東部からタスマニア島へ渡りますが、その間の経路はわかっていませんでした。そこで、守るべき中継地があるかを知るため、2016年に渡り経路の調査を行ないました。繁殖を終え、渡り前の時期である7月に苫小牧市の勇払原野でオオジシギを捕獲し、18日間で101羽にカラーフラッグと標識を、5羽に衛星追跡用の送信機をつけました。

5羽の背中についた送信機からは衛星を介し、位置データが送られます。行方不明になってないか、いつ渡りを開始するのか、気になって眠れない日が続きました。しばらく、苫小牧市内にとどまっていた5羽ですが、まず、1羽が予想もしない動きを見せました。移動した位置を確認すると、なんと越冬地とは逆の北へ向かっています。結局、苫小牧から70kmほどの岩見沢市内の農地に落ち着き、そこで数週間を過ごしました。別の1羽は日高山脈を越え更別村に移り12日間滞在しました。本格的な渡りの前に道内で移動することがあるようだということがわかりました。

そんな中、1羽が8月27日に渡りを始めました。ところが、この個体は2016年北海道に甚大な被害をもたらした台



写真1. オオジシギ. 大きな音を立てて空を切る飛行から別名カミナリシギとも呼ばれる

風10号に向かっていました。道中の無事を祈りながら見守りましたが、翌日を最後に電波が途絶えてしまいました。次に9月11日、別の1羽が苫小牧から南南東約1500kmの海上にいるという信号が届きました。数時間おきのデータからは南へ向かって飛んでいるようすがわかりました。そして、ついに16日早朝ニューギニア島北岸に到達しましたが、残念ながらここで信号が消え、その先の経路はわかりませんでした。しかし、太平洋を6日間ノンストップで縦断したことがわかりました(図1)。また、途中で信号が消えてしまいましたが、他の2羽も本州の陸地から離れた軌跡を取りました。

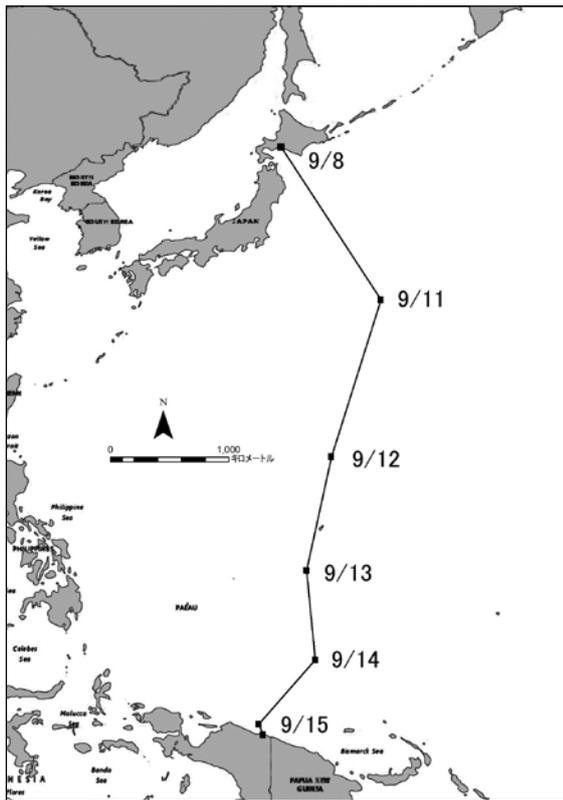


図1. 苫小牧からニューギニア島までの渡り経路

越冬地や、春の渡り経路など不明な点がありますが、国内に中継地がないようだということがわかり、とりえず翌年の調査は一時中断としました。

ところが標識を付けて2年後の2018年7月に突然、茨城県からフラッグ付きの個体の目撃情報が寄せられました。この個体のこの年の繁殖地は不明ですが、本州を經由する渡りルートがある可能性も出てきました。もう少し軽く個体に負担のかからない送信機が発売されたら再度調査をしたいと考えています。

**オオジシギは減っているか**

次に、オオジシギの個体数は減っているのか、減っているとしたら何が原因なのかを知るため、カウント調査を実施しました。まず、当会の2001年の調査結果がある勇払原野で、2017年5月に調査をしました。勇払原野を1km<sup>2</sup>の

メッシュにわけ、59メッシュで10分間、ディスプレイフライトをしている個体をカウントしたところ77羽が確認されました。同じ調査方法で107羽が記録された2001年と比べ30羽、3割減ったという結果です。各メッシュ別に数の増減と環境の変化と照らし合わせ分析した結果、草地や荒地の減少と樹林、人工地の増加が個体数の減少に影響していることがわかりました。

翌2018年は、北海道全体での総個体数を推定する調査を実施しました。日本野鳥の会の道内の支部の協力を得て、北海道内の14エリアで1km<sup>2</sup>のメッシュを10タイプの土地利用に分け、そのうち5タイプの中からランダムに選んだ588メッシュで、ディスプレイフライトをしているオオジシギを数えました。そこから土地利用区分ごとに1メッシュあたりの平均個体数を求め、その値にエリア内の各土地利用区分のメッシュ数をかけてオスの推定個体数とし、メスが同数いると仮定して2倍しました。

その結果、北海道内のオオジシギの推定個体数は約3万5千羽となりました。環境別でみると、荒地で一番平均個体数が多く、ついで農地、河川湖沼となりました。エリア別では、根室が1km<sup>2</sup>あたり2羽以上と一番密度が高く、ついで釧路、十勝などの道東地方と宗谷などの道北地方が高く、道南では少ないことがわかりました(図2)。

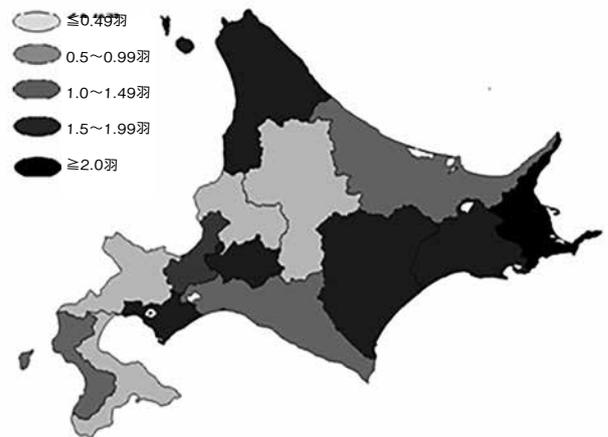


図2. 地域ごとのオオジシギの推定密度

これは、道東、道北はオオジシギの好む荒地と農地の面積の割合が大きく、森林の割合が低いこと、道南は森林の割合が大きく、荒地や農地の割合が低く、さらに大きな河川もあまりなく河川湖沼の環境も少ないためだと考えられます。

今後は、さらに生息地の選好性を調べ、どのような場所をどう保全していくかを調査すると同時に、道民のみなさんにオオジシギについてもっと知っていただき、地域の自然に目を向けてもらえるような普及活動にも力を入れたいと考えています。

## ロシア極東・鳥紀行 (5)

美唄市 藤 卷 裕 蔵

### ワシミミズクとシマフクロウ

鳥紀行の舞台は再びロシア極東南部に戻り、ワシミミズクとシマフクロウの生息地を訪れたときの話になる。

ワシミミズクは大型のフクロウの一種である。日本ではまれに渡来する迷鳥とされていたが、1994年の春に道北での繁殖が明らかになった。そのため、この年の12月に環境庁(当時)はワシミミズクを種の保存法に基づく緊急指定種とし、翌年1月からこの種が本指定の要件を満たすかどうかの調査を始めた。私はこの調査結果のとりまとめを担当することになったが、北海道の繁殖場所は1か所だけで、この鳥がどのような生息環境を必要とするのかという一般的な傾向をつかめないうでいた。

一方、同じ頃シマフクロウについて、環境庁は保護増殖事業の一環としてアクションプランの作成を進めており、新たに生息地を増やしていく上でどのような環境造りをすればよいのかを明らかにする必要があった。しかし、北海道では自然環境の改変が進み、本来シマフクロウがどのような環境に生息しているのかを知ることはまず不可能であった。

これら2種のフクロウの本来の生息環境を明らかにするという目的で、シマフクロウの研究者3名、山本純郎、早矢仕有子、竹中健の各氏と一緒に、1996年7月25日から10日間にわたり、北海道に比べまだ良好な自然環境が残されているロシア沿海地方を訪れた。この地域はロシアにおけるシマフクロウの主要な分布域なのである。

### ワシミミズクの生息環境

最初に訪れたのは、ウスリースク市西部を流れるラズドリナヤ川の支流ボリソフカ川沿いである(図1、本誌191号、p.3)。この川の中・上流部の右岸は段丘で、所々で険しい崖になっている。ワシミミズクの巣はこのような崖にあった。巣は川岸から高さ約20mの岩穴で(写真20)、奥行き1.7m、幅80cmあった。巣のそばには餌の処理場があり、ハリネズミの食べ残しが、巣下にはペリットがあった。この川沿いの崖では約5km間隔で3つがい繁殖しているという。

もう一つの繁殖場所はラズ地方(図1)の農耕地内にある岩山である(写真21)。岩は幅約100m、高さ50mほどであった。

この他に、オリガ(図1)の日本海に注ぐ川の川沿いとイマン川沿い(図1)と、全部でワシミミズクの繁殖地4か所を見ることができた。巣は段丘斜面の崖や大きな岩山



写真20. ワシミミズクの岩穴。矢印先端のやや右側が岩穴入口で、幅は80cm、奥行きは1.7mである。



写真21. ラズのワシミミズク繁殖場所

にあり、いずれの場合も巣の前面、または周囲がおもに畑や草地で、場所によってはこれらの環境と低木林とがモザイク状になっていた。

道北で見つかったワシミミズクの繁殖地も、崖とその前は開けた農耕地で、ロシア極東の環境とよく似ていた。巣場所となる崖と採餌場となる開けた環境の組合せがワシミミズクの標準的な繁殖場所であることが、ロシア沿海地方での調査で確認できたわけである。しかし、北海道にはこのような環境は少なく、ワシミミズクはあまり多くは生息できないのではないかと思った。

## 移動と宿泊

空港に到着してから調査地までの移動手段はおもに自動車、イマン川では船外機付きの舟も使用した。ガイド兼共同調査者はウラジオストクにある生物学・土壌学研究所の鳥類研究者で、彼の研究協力者の数人が車の運転手を務めてくれた。ロシアの研究者には、自分の各調査地近くに地元の協力者がいて、これらの人たちが舟を動かしてくれたり、宿を提供してくれたりした。また自分の狩猟小屋を使わせてくれたりもする。この年の調査では、車の走行距離だけでも2,000kmにもなった。公共の交通手段や宿泊施設のない地域での私たちの調査では、これらの協力者なしではまず不可能なのである。

ウラジオストクからハバロフスクへの幹線道路や都市部の道路は舗装されているが、それ以外は未舗装で、道路事情は決してよくない。とくにシマフクロウの生息地に向かうような場合には、道路がなかったり、道路があっても橋がなかったりである。道路がない場合には舟を利用する。橋がない場合、水深が浅ければ車で川を横断し、大きな川では車を渡す工夫がされている。イマン川では渡船場があり、大きな栈橋状の舢(はしけ)に車を乗せ、それを川の兩岸からのワイヤーロープで動かしていた(写真22)。木材を積んだ大型車もこれで川を渡るのである。



写真22. 渡船場の舢

一度、普段であれば車で渡れる川が大雨のせいで増水し、そのため大回りをして目的地に到着したのが真夜中近くになったこともあった。調査日程も自然まかせといったところであろうか。

## シマフクロウの生息環境

シマフクロウの生息環境については1996年には日本海沿岸オリガ湾に注ぐアクワクモフカ川沿いとウスリー川の支流であるイマン川沿いで調査した。これ以降にも2000年9月にイマン川とその支流のアルム川の流域、2002年5月に日本海側のケマ川流域、2012年9～10月にケマ川とイマン川の流域で調査した。これらの調査で、何例もの巣とその

周囲の環境を見ることができた。

代表的な一例を挙げると、アクワクモフカ川沿いでは、繁殖場所は河口から数kmの氾濫原にある河畔林で、営巣木はヤナギの胸高直径105cmもある大木であった。巣は幹が地上6mあたりで折れた部分にあるオープンな洞であった(写真23)。営巣木の周りには胸高直径50cm以上の大径木が10～20m間隔であり、樹高6m前後の低木がやや密



写真23. シマフクロウの営巣木

に生えている。高木と低木との差は大きく、地上から6～15mの間は枝などが無い空間となっていて、シマフクロウの飛翔には好適な状況であると思われた。本流の川幅は約100mもあるが、中洲や支流が多く、採餌に適した流れの緩い浅瀬が十分にある(写真24)。冬には積雪が40～60cmあり、川では結氷するが、支流には湧水があって冬でも凍結しない開水面があるとのことであった。他の場所でも営巣木は127cmもの大径木であった。

イマン川中流部沿いでも数か所の繁殖場所を見ることができた。本流の川幅は100m近くあるが、小さな支流で



写真24. シマフクロウの生息環境

は流れも緩やかで水深も浅い。営巣木のある林では樹高は25～30m、胸高直径10cm以上の木のうち80cm以上が16%、60cm以上が34%を占めている。やはり営巣・採餌のよい環境が整っている。2002年のケマ川沿いの調査では、鳥類の他に河川、植物、魚類の専門家も加わり、将来北海道に同じような環境を造るさいの基礎資料となるよう、川の形態、森林の構造、魚類の生息状況のデータも収集した。

イマン川沿いでは、1～2回トラの足跡を見ることがあった。また、川で釣りをする人からトラを見たという話を聞いたこともある。シマフクロウが生息する森は、トラも住める環境なのと思った。

一方、北海道でよい自然が残されていると言われる知床半島の森林でも、胸高直径60cm以上の樹木は10%程度なのである。ロシア沿海地方で見たシマフクロウの生息環境は、今の北海道では見ることができないと言ってよいであろう。

### 森林伐採

1996年の調査のとき、イマン川中・上流域やビキン川中流域には、1990年のコウノトリ調査のときと同様に、シマフクロウの生息に好適な森林がよく残されているという印象が強かった。しかし、2002年以降の調査では、移動途中や調査地で伐採跡、土場に積まれた木材、木材を積んだ大型車がよく見られた。かつてソ連時代には森林は国有地で、国が管理していたが、ロシアになってからはかなり民間に払い下げられ、伐採が進んでいるようである。



写真25. 輸出される木材

テルネイには「テルネイ・レス」という林業会社があり、港には木材の山が見られた(写真25)。地元の人の話では、これらは全て日本に輸出されるとのことであった。都市部以外では道路はほとんど未舗装であるが、テルネイ付近では舗装道路となっていた。林業会社が舗装したとのことであったが、行政に代わって道路を舗装するくらい収益を上げているということであろうか。

2012年に訪れたときには、シマフクロウの生息地周辺でも伐採が進んでいた。しかし、伐採を止めることはできず、

研究者と林業会社との間で営巣木から半径数十mの範囲だけを伐採しないという協定を結ぶのがやっとのことのようである。

### マガジン(商店)

最初の調査から最近の調査までの間は、約20年になる。この間に森林の鳥類の生息環境にも変化があったようである。また、道路事情もよくなり、ウーリス市では高速道路のようなバイパスができていた。街中の様子にも変化が見られ、その一つがマガジン(商店)の変わりようである。

ソ連時代には、マガジンで買物をするとき、品物を手にとって見ることはできず、まず値段を確認してから「カッサ」という会計カウンターで支払いを済ませ、領収書をもって売場に行き、品物を受け取るというシステムであった。また、店構えも周辺の建物と似ていてすぐに商店だとは分からず、営業時間も官庁なみで、昼休み2時間は閉店であった。



写真26. マガジン(商店)の店構え

ところが、最近では日本のコンビニと同じで、棚に並んだ品物を手にとって見ることができ、購入するものを直接会計の所に持って行って支払うという方式になっている。また、店構えも一見して商店とわかるようなデザインになっていて、しかもほとんどの店が24時間営業である(写真26)。

変われば変わるものであるが、都市部にある自由市場や道路沿いで自家製の野菜やジュース、蜂蜜などを売っているのは昔のままであった。

### 標本調査

野外調査中または終了後に、ウラジオストクにある生物学・土壌学研究所などでワシミズクとシマフクロウの標本を調べた。

ワシミズクの翼長は平均して北海道産のものよりやや短かったが、計測値は重複しており、産地の違いを識別はできなかった。その後DNAを調べてもらったが、分類上で別亜種とされているものを識別できなかった。ワシミミ

ズクはヨーロッパからアジアにかけて広く分布しており、西から東にかけて大きな変異があるが、変異は連続的で、羽色は同じ地域の個体間でも差がある。形態の特徴でもDNAでも亜種をはっきりと分けることができないため、ワシミミズクの場合は「種指定」となった。

大陸のシマフクロウの調べた4羽のうち2羽の頭部には白い羽毛が混在していたが、これは北海道の個体には見られない。分類上、大陸と島（北海道、サハリン、国後島）のシマフクロウは別亜種である。また、亜種間で雌雄のデュエットに違いがある。シマフクロウは雌雄とも「ポーポー」と二音節でなくが、北海道では雄の二音節目に雌の一音節目が重なるのに対し、大陸では雄が二声ないた後に雌が二声なくという違いがある。しかし、大陸の亜種の生息環境について得られた知見は、北海道での生息環境整備に役立つはずである。

このほか、調べた標本2羽の脚には罾にかかった跡が見られた。シマフクロウが毛皮動物を捕獲する罾にかかってしまう例は、昔から起きているようである。ロシアで狩猟は主要な産業の一つなので、罾猟におけるシマフクロウ被害は森林伐採とともに今後も心配の種である。

**おわりに**

ロシア極東は日本に渡来する冬鳥や旅鳥の繁殖地であり、シマフクロウのように両国にともに生息する絶滅のおそれのある種の生息地でもある。しかし残念なことに、隣国なのにロシア極東の自然に関する情報は、一般のメディアを通してはなかなか得られない。そのためか、冬鳥や旅鳥の

繁殖地の状況や稀少鳥類の現状について関心をもつ人は少ないようである。

今回の私の紀行記で、ロシアの鳥類・自然に関心をもつ人が少しでも多くなっていただければと思う。

なお、この紀行文で紹介した各調査の結果はすでに下記の論文・報告として発表されているので、詳しく知りたい方はこれらを参照していただきたい。

藤巻裕蔵・花輪伸一・尾崎清明・柚木修・西島房宏・Khrabryi, V. M.・Starikov, Yu. B.・Shibnev, Yu. B., 1989. ソ連極東ビキン川中流域におけるナベヅルの繁殖生態—1988年日ソ稀少鳥類共同調査—. Strix 8: 199-217.

藤巻裕蔵・藤田剛・柚木修・山田元一郎・Khrabryi, V. M.・Shibnev, Yu. B.・Sokolov, A. B., 1990. ソ連極東ビキン川流域におけるコウノトリの繁殖生態—1990年日ソ稀少鳥類共同調査—. Strix 9: 139-157.

藤巻裕蔵・樋口広芳・柳沢紀夫・佐藤文男・幸丸政明・梅木賢俊・Alekseev, S. A.・Lobkov, E. G.・Ladygin, A. V.・Banin, D. A., 1991. カムチャツカ半島東部の鳥類. Strix 10: 219-228.

藤巻裕蔵・山本純郎・早矢仕有子・竹中健. 1997. ロシア沿海地方にワシミミズクとシマフクロウを訪ねて. 野生物保護行政 (11): 10-15.

藤巻裕蔵. 1997. レナ川中流域におけるオオハクチョウの調査報告. 日本の白鳥 (22): 2-12.

**冬鳥があまり来ませんでした —18/19冬—**

2018年から2019年への冬、野鳥観察や撮影を楽しむ人たちの間では「冬鳥が少ないね」という声もっぱらでした。

冬鳥の代表の一つとしてのレンジャク類の飛来状況をみると、ヒレンジャクは数十羽の群れが散見さ



ヒレンジャク 2018.11.19 札幌市南区 中村 隆さん撮影

れたものの、キレンジャクは「1羽だけ見たよ」とか、「誰かが見たらしい」という、極めて少ないレベルだったようです。ベニヒワ、イスカ、ギンザンマシコなどはほぼ皆無みたいでした。ツグミ、アトリ、マヒワはそこそこ見られたけれども、決して多くはなかったようです。

同じような状況は、近年では04/05冬でした。05年3月18日の北海道新聞には「冬の野鳥まばら」と報道され、野鳥だより第140号(2005)には「レンジャク類渡来確認なし」という記事にもなりました。

冬鳥が来ない理由として、餌となるナナカマドの実などの液果が北方の繁殖地近くで豊富であれば、わざわざ遠い南の地まで来る必要がないからというのが有力です。冬鳥の飛来を楽しみにしている人たちの思いはあるでしょうが、鳥たちにとっては長距離移動をしなくて済む楽な状況なのかもしれません。

(広報部)

## コアカゲラ—野幌森林公園初記録!!—

埼玉県越谷市 小林 正 康

この度は埼玉県から野鳥仲間8人で、1月23日から1月26日まで札幌から千歳近郊を探鳥しました。25日に野幌森林公園に行き、大沢口から大沢コースと桂コースを結ぶ周回コースを反時計回りと、時計回りの2チームに分かれて、野鳥観察を始めました。当日は遊歩道に雪も多く積もり、少し道を外れると膝まで潜ります。私のチームは大沢コースから入る反時計周回コース。原生林に雪の綺麗なフィールドで、スタートするやいなやマヒワの群れに出会い気分良く足を進め、大沢コースから右に分岐する地点の少し手前あたりで、本州では見られないヤマゲラを見つけて撮影をしていると、左側から頭上にシマエナガの群れに混じってコゲラが飛んできました。コゲラが高い所で何かの実をホバリングして食べ始めたので、レンズを向けて見るとコゲラより少し大きく、背中の中黒の縞も太いし、コアカゲラかなと思いつつも、まさかここで会うわけがないと半信半疑。コアカゲラと思われる鳥は、実を食べながらのホバリングと少し木に止まって背中を向けた縦の移動のみ、わずかな

時間で遊歩道の上を横切り反対側の林に飛び去りました。

さらにエゾフクロウを観察して予定のコースを周回しながら大沢口に戻り、雪もかなり降ってきたので自然ふれあい交流館に入り休憩。そこで「さっき半信半疑だったコアカゲラを交流館のスタッフに聞いてみよう」となってスタッフに聞いてみたら「間違いなくコアカゲラで野幌森林公園では初認ではないか」の答えに私達もびっくり。さらに参考までに画像を提供して欲しいと頼まれたものの、拙い画像で申し訳なく、あんな画像で参考になるのか、もったときっちり撮影すれば良かった、雄だったら良かったのになど反省しきり。3月に入り愛護会様より電話を頂き、野幌公園ではその後、コアカゲラは確認されてないと聞いて私達も残念な思いです。

北海道に住み素晴らしい環境の中で、野鳥やエゾリスを観察される愛護会会員の皆様は幸せだと思います。これからも本州から北海道の野鳥をそっと観察しに行きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。



コアカゲラ 2019.1.25 野幌森林公園

### 表紙の鳥

### アメリカヒドリ



鍛練のためにウォーキングを始めました。双眼鏡と望遠カメラを携行したウォーキングですのでかなりの運動量です。このような難行苦行も報われることがあります。写真のアメリカヒドリもその一つで、伏籠川合流点近くの発寒川(札幌市北区)で撮影したものです。通常種であれば頬のかなりの部分がゴマ塩状ですが白色となっています。ある方から、北米のハンターの間では"Storm Wigeon"とって珍重されていると教えていただきました。日本で観察されるヒドリガモの英名は"Eurasian Wigeon"で、北米ではアメリカヒドリの群れに混じって散発的に観察されるようです。日本と逆ですね。

辻 雅司(札幌市北区)

2018年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録(2018.4~2019.3)

科・種名	探鳥地	モエレ沼	宮島沼	野幌森林公園	藤の沢	野幌森林公園	千歳川	鶴川河口	野幌森林公園	植苗ウトナイ	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	鶴川河口	宮島沼	野幌森林公園	ウトナイ湖	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数	
	月日	4/15	4/22	4/29	5/5	5/6	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/8	8/19	8/26	9/30	11/4	11/11	12/2	1/20	2/3	3/3	3/17		
<b>カモ科</b>																										
ヒシクイ		●															●							●	3	
マガン		●															●							●	4	
シジュウカラガン		●															●								2	
コブハクチョウ										●										●					●	3
コハクチョウ		●															●		●						●	4
オオハクチョウ		●							●										●						●	4
オシドリ	●		●			●	●																			4
ヨシガモ	●	●						●									●		●						●	6
ヒドリガモ	●	●					●	●									●		●						●	7
マガモ	●		●	●		●	●					●				●	●	●			●				●	12
カルガモ		●	●				●	●		●					●	●	●								●	9
ハシビロガモ	●	●						●							●	●	●								●	5
オナガガモ	●	●															●		●						●	5
トモエガモ																	●		●						●	2
コガモ	●	●	●		●			●									●	●	●						●	9
ホシハジロ	●																●		●							2
キンクロハジロ	●	●					●										●	●	●							6
スズガモ																			●		●					2
シノリガモ																					●					1
クロガモ								●												●						2
ホオジロガモ																			●		●				●	3
ミコアイサ	●																								●	2
カワアイサ	●							●											●						●	4
ウミアイサ								●													●					2
<b>カイツブリ科</b>																										
カイツブリ	●	●	●			●				●							●		●							7
アカエリカイツブリ																					●					1
カンムリカイツブリ	●																●		●		●				4	
ミミカイツブリ																			●		●				2	
ハジロカイツブリ																			●		●				2	
<b>ハト科</b>																										
キジバト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●										13	
アオバト								●	●		●															3
<b>アビ科</b>																										
アビ																					●					1
シロエリオオハム																					●					1
<b>ウ科</b>																										
ヒメウ																					●					1
カワウ	●															●			●						●	4
ウミウ							●								●					●						3
<b>サギ科</b>																										
アオサギ	●	●	●				●	●			●				●	●	●			●					●	11
ダイサギ	●															●	●		●						●	5
<b>クイナ科</b>																										
バン	●																									1
オオバン	●	●																								2
<b>カッコウ科</b>																										
ツツドリ					●	●		●	●		●			●												6
カッコウ							●		●	●		●														4
<b>アマツバメ科</b>																										
ハリオアマツバメ							●																			1
<b>シギ科</b>																										
オオジシギ									●																	1
チュウシャクシギ							●																			1
ソリハシシギ																●										1
イソシギ			●												●	●										3
アカエリヒレアシシギ															●											1

科・種名	探鳥地	モエレ沼	宮島沼	野幌森林公園	藤の沢	野幌森林公園	千歳川	鶴川河口	野幌森林公園	植苗ウトナイ	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	鶴川河口	宮島沼	野幌森林公園	ウトナイ湖	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数
	月日	4/15	4/22	4/29	5/5	5/6	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/8	8/19	8/26	9/30	11/4	11/11	12/2	1/20	2/3	3/3	3/17	
<b>カモメ科</b>																									
ユリカモメ							●								●	●								3	
ウミネコ							●								●	●					●			4	
カモメ	●						●														●			3	
ワシカモメ																					●			1	
シロカモメ																			●		●			2	
オオセグロカモメ								●							●	●			●		●			5	
クロハラアジサシ	●																							1	
<b>ウミスズメ科</b>																									
ウミスズメ																					●			1	
<b>ミサゴ科</b>																									
ミサゴ							●																	1	
<b>タカ科</b>																									
トビ	●	●	●				●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18
オジロワシ	●						●		●							●			●		●			7	
オオワシ																				●				2	
チュウヒ							●					●					●							3	
オオタカ			●	●												●		●	●					6	
ノスリ			●															●	●					4	
<b>フクロウ科</b>																									
フクロウ								●																1	
<b>カワセミ科</b>																									
カワセミ			●		●											●								3	
<b>キツキ科</b>																									
アリスイ										●														1	
コゲラ			●	●	●	●		●		●		●		●				●	●	●		●	●	13	
オオアカゲラ			●					●										●		●			●	5	
アカゲラ	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●					●		●		●	●	15	
クマガゲラ					●														●			●		3	
ヤマゲラ			●	●	●	●		●		●								●						7	
<b>ハヤブサ科</b>																									
ハヤブサ																●	●							2	
<b>モズ科</b>																									
モズ										●							●							2	
<b>カラス科</b>																									
カケス				●																				1	
ハシボソガラス	●	●		●		●	●	●	●	●		●		●	●				●	●	●		●	16	
ハシブトガラス	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	20	
<b>クイタダキ科</b>																									
クイタダキ																					●			1	
<b>シジュウカラ科</b>																									
ハシブトガラ			●	●	●	●		●	●		●		●				●	●	●		●	●	●	14	
コガラ			●																					1	
ヤマガラ			●	●	●	●		●						●				●		●		●	●	10	
ヒガラ			●	●	●	●		●	●		●			●				●		●		●	●	11	
シジュウカラ	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	
<b>ヒバリ科</b>																									
ヒバリ	●	●					●					●	●	●		●								7	
<b>ツバメ科</b>																									
ショウドウツバメ															●	●								2	
ツバメ								●																1	
イワツバメ				●		●																		2	
<b>ヒヨドリ科</b>																									
ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	19	
<b>ウグイス科</b>																									
ウグイス			●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●										10	
ヤブサメ			●	●	●	●		●	●		●		●											8	
<b>エナガ科</b>																									
エナガ				●		●					●											●	●	5	

科・種名	探鳥地	モエレ沼	宮島沼	野幌森林公園	藤の沢	野幌森林公園	千歳川	鶴川河口	野幌森林公園	植苗ウトナイ	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	鶴川河口	宮島沼	野幌森林公園	ウトナイ湖	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数
	月日	4/15	4/22	4/29	5/5	5/6	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/8	8/19	8/26	9/30	11/4	11/11	12/2	1/20	2/3	3/3	3/17	
ムシクイ科																									
オオムシクイ									●																1
エゾムシクイ							●																		1
センダイムシクイ			●	●	●	●			●	●		●		●											8
メジロ科																									
メジロ			●	●						●															3
センニュウ科																									
エゾセンニュウ													●												1
ヨシキリ科																									
オオヨシキリ										●		●		●											2
コヨシキリ							●		●	●		●				●									5
ゴジュウカラ科																									
ゴジュウカラ			●	●	●	●		●			●			●				●	●	●		●	●		12
キバシリ科																									
キバシリ				●	●													●	●	●		●			6
ムクドリ科																									
ムクドリ	●									●		●				●	●			●					6
コムクドリ										●		●													2
ヒタキ科																									
クロツグミ			●	●	●	●		●	●		●			●											8
マミチャジナイ									●										●						1
アカハラ								●																	1
ツグミ	●																	●		●		●	●		5
コマドリ			●																						1
ノゴマ										●															1
ノビタキ		●					●		●	●		●				●									6
コサメビタキ						●																			1
キビタキ					●	●		●	●		●			●											6
オオルリ					●		●	●	●		●			●											5
スズメ科																									
ニューナイスズメ		●	●	●	●	●		●			●	●													8
スズメ	●		●	●			●		●	●		●				●					●		●		9
セキレイ科																									
キセキレイ				●		●					●														3
ハクセキレイ	●		●	●		●						●				●	●								7
セグロセキレイ						●																			1
アトリ科																									
アトリ	●																					●			2
カワラヒワ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●			●	●								●		14
マヒワ				●																					1
ベニマシコ													●												1
イスカ	●			●		●																			3
ウソ			●																				●		2
シメ				●																					2
イカル										●										●					1
ホオジロ科																									
ホオアカ							●		●	●		●		●		●									5
アオジ		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●			●								12
オオジュリン	●						●		●	●		●				●									6
ハト科 (外来種)																									
カワラバト (ドバト)							●			●											●				3
観察種類数	37	25	35	31	26	36	34	27	32	23	23	25	20	15	25	27	20	35	18	28	14	14	32		
参加者数	23	34	47	25	31	15	20	24	29	26	38	33	33	33	21	27	32	20	35	39	26	42	28		

※1 宿泊探鳥会を除き、23回実施、9/9のいしかり調整池、9/16と10/7の野幌森林公園は地震や台風、荒天のため中止  
 ※2 総観察種 39科 128種、1回平均 26.1種 (前年度: 43科 139種、1回平均 26.1種)  
 ※3 延参加者数 681人、1回平均 29.6人 (前年度 延参加者数 841人、1回平均 33.6人)

## 2019年度総会報告

日 時：2019年4月10日(水) 18:00～20:00

場 所：かでの2・7 110会議室

樋口孝城会長の挨拶のあと、議長に栗林宏三氏を選出した。議案審議のうえ、原案通り可決、承認された。

### 〈議 事〉

#### 1. 2018年度事業報告

##### 〔総務〕

##### (1) 野鳥写真展の開催

期 間：2018年5月10日(木)～5月23日(水)

場 所：札幌市男女共同参画センター(北区北8西3)  
エルプラザ2階 交流広場

出 展：14名 26点

##### (2) 野幌森林公園自然ふれあい交流館写真展

期 間：2018年6月1日(金)～6月30日(土)

出 展：14名 26点

##### (3) 「北海道野鳥だより」の発送(192号～195号)

##### (4) 新年講演会・野鳥写真映写会の開催

日 時：2019年1月12日(土)13:30～16:00

場 所：エルプラザ4階 大研修室

講 師：百瀬邦和氏

(NPO法人タンチョウ保護研究グループ理事長)

演 題：「タンチョウ保護の行き先」

参加者62名(写真提供者4名)

##### (5) 北海道野鳥愛護会の名入りカレンダーの作成・販売 70部 販売価格1,200円

##### (6) 定例役員・幹事会の開催(各月1回、計12回)

##### (7) 傷害保険の更新

##### 〔広 報〕

##### (1) 「北海道野鳥だより」192号～195号の発行

##### (2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営

##### (3) 探鳥会年間予定表を関係施設に配布

##### 〔探 鳥〕

##### (1) 探鳥会の開催 23回

(延べ参加者数681人、1回平均29.6人)

##### (2) 宿泊探鳥会 9月1日(土)～2日(日)

道東・オホーツク 参加者41名

##### (3) いしかり調整池環境保全活動

6月15日 花壇の植栽

8月31日・9月9日・9月28日 清掃活動

探鳥会開催ポスター、マナー順守ポスターを施設掲示ボードに掲載

#### 2. 2018年度決算報告

2018年度決算書(別掲の通り)

#### 3. 会計監査報告

吉中宏太郎・白澤昌彦監事から適正に処理されている旨の報告があった。

#### 4. 2019年度事業計画

##### 〔総務〕

##### (1) 野鳥写真展の開催

期 間：2019年5月8日(木)～5月21日(火)

場 所：札幌市男女共同参画センター(北区北8西3)  
エルプラザ1階 情報センター

##### (2) 野幌森林公園自然ふれあい交流館写真展

期 間：2019年6月1日(土)～6月30日(日)

##### (3) 「北海道野鳥だより」の発送(196号～199号)

##### (4) 新年講演会・野鳥写真映写会の開催

日 時：2020年1月11日(土)

場 所：エルプラザ4階 大研修室

会場都合により日時、場所共に変更の場合あり

##### (5) 北海道野鳥愛護会の名入りカレンダーの作成 (販売部数・販売価格は未定)

##### (6) 定例役員会の開催(各月1回、計12回)

「役員・幹事会」を「役員会」に名称変更

##### (7) 傷害保険の更新

##### (8) 関連団体との協力(野幌森林公園を守る会など)

##### 〔広 報〕

##### (1) 「北海道野鳥だより」196号～199号の発行

##### (2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営

##### (3) 探鳥会年間予定表を関係施設に配布

##### 〔探 鳥〕

##### (1) 探鳥会の開催 26回

##### (2) 宿泊探鳥会 5月17日(金)～19日(日) 礼文島

##### (3) いしかり調整池環境保全活動

##### (4) テストケースとして室蘭探鳥会を計画

##### 〔その他〕

##### (1) 50周年記念事業の推進

#### 5. 2019年度予算

2019年度予算書(別掲の通り)

#### 6. 2019年度役員人事

監事の吉中宏太郎氏が退任し、後任として松原寛直氏を選出した。広報代表幹事の島田芳郎氏が退任し、後任として樋口孝城氏(会長兼任)を選出した。新たに、新城久氏・鈴木幸弥氏を幹事として選任した。

顧問 藤巻裕蔵、小堀煌治、戸津高保  
 会長 樋口孝城  
 副会長 富川 徹、栗林宏三、横山加奈子  
 監事 白澤昌彦、松原寛直  
 代表幹事 畑 正輔  
 幹事  
 (総務) ◎辻 雅司、品川睦生、竹内 強、中村 隆、  
 畑 正輔 (兼)  
 (会計) ◎横山加奈子 (兼)、原 美保、浜野チエ子

(探鳥) ◎早坂泰夫、梅木賢俊、門村徳男、北山政人、  
 後藤義民、佐々木 裕、道場 優、  
 鷺田善幸、佐藤ひろみ、富川 徹 (兼)、  
 白田 正、栗林宏三 (兼)、新城 久、  
 鈴木幸弥  
 (広報) ◎樋口孝城 (兼)、川路則友、道川富美子、  
 島崎康広、田中冬彦、中田達哉、  
 國本昌秀、今堀魁人  
 (◎は、各担当の代表者)

## 2018年度 決算書

### (収入の部)

項目	2017年度決算	2018年度予算	2018年度決算額	予算比(▲減)	備 考
個人会費	505,000	520,000	498,000	▲ 22,000	前納、後納を含む
家族会費	159,000	147,000	177,000	30,000	
団体会費	5,000	5,000	5,000	0	
活動収入	221,470	210,000	196,600	▲ 13,400	講演会、 小樽探鳥会、 カレンダー売上他
雑収入	4	542	2,204	1,662	利息他
寄付金	73,000	10,000	55,000	45,000	個人寄付
小 計	963,474	892,542	933,804	41,262	
繰越金	271,172	321,458	321,458	0	
合 計	1,234,646	1,214,000	1,255,262	41,262	

### (支出の部)

項目	2017年度決算	2018年度予算	2018年度決算額	予算比(▲減)	備 考
印刷費	444,374	435,000	467,486	32,486	野鳥だより印刷費他
通信費	129,384	180,000	149,394	▲ 30,606	会報発送費、切手代他
会議費	48,700	50,000	45,000	▲ 5,000	幹事会、総会会場費
活動費	189,407	200,000	211,481	11,481	会場費、バス代、カレンダー支払
消耗品費	30,503	42,000	27,422	▲ 14,578	インク代、封筒代、用紙代他
事務所費	40,000	40,000	40,000	0	事務所費用
傷害保険	18,320	17,000	17,440	440	保険代
雑 費	2,000	10,000	1,350	▲ 8,650	設備利用料
予備費	0	240,000	0	▲ 240,000	
基金積立	0	0	0		
繰越金	321,458	0	295,689	295,689	
合 計	1,224,146	1,214,000	1,255,262	41,262	

## 2019年度 予算書

### (収入の部)

項目	2019年度予算	2018年度決算	増 減	備 考
個人会費	500,000	498,000	2,000	前納、後納を含む
家族会費	174,000	177,000	▲ 3,000	
団体会費	5,000	5,000	0	
活動収入	200,000	196,600	3,400	講演会、 カレンダー売上、 小樽探鳥会
雑収入	311	2,204	▲ 1,893	利息他
寄付金	10,000	55,000	▲ 45,000	個人寄付
小 計	889,311	933,804	▲ 44,493	
繰越金	295,689	321,458	▲ 25,769	
合 計	1,185,000	1,255,262	▲ 70,262	

### (支出の部)

項目	2019年度予算	2018年度決算	増 減	備 考
印刷費	438,000	467,486	▲ 29,486	野鳥だより印刷費
通信費	247,000	149,394	97,606	会報発送費、切手代他
会議費	45,000	45,000	0	幹事会、総会会場費
活動費	220,000	211,481	8,519	会場費、バス代、カレンダー支払
消耗品費	30,000	27,422	2,578	事務用品他
事務所費	40,000	40,000	0	
傷害保険	14,000	17,440	▲ 3,440	保険代
雑 費	10,000	1,350	8,650	設備利用料他
予備費	141,000	0	141,000	
基金積立	0	0	0	
次年繰越		295,689	▲ 295,689	
合 計	1,185,000	1,255,262	▲ 70,262	

## 積立基金特別会計

### (2018年度収入決算) (2019年度収入予算)

項目	金額
積立金	600,000
一般会計より繰入	0
合 計	600,000

項目	金額
積立金	600,000
一般会計より繰入	0
合 計	600,000

## 会 員 数

	2015. 4. 1	2016. 4. 1	2017. 4. 1	2018. 4. 1	2019. 4. 1
個人	258名	262名	262名	274名	261名
家族	111名(47家族)	125名(54家族)	124名(55家族)	119名(52家族)	132名(59家族)
団体	2会員	1会員	1会員	1会員	1会員
合 計	371名	388名	387名	394名	394名



**円山公園**  
 2019. 3. 3  
 札幌市厚別区 加納 美紀

家の周りには針葉樹がたくさんあり、小鳥のさえずりも聞こえますが、鳥の種類も分からず、日々ただ聞いて楽しんでいます。以前、散歩中に目の前に頭の赤いキツツキのような鳥が現れ、名前を知りたくなりバードウォッチングに興味を持ち始めました。

今回初めて円山公園の探鳥会に参加させていただきました。「初心者の方ですか?」と皆さん優しく声を掛けてくださり、説明して下さる方々は鳴き声を聞いただけで鳥の種類、いる方角もすぐに察知され、スコープに写して覗かせてくださり感動しました。スコープの中の鳥は肉眼では分からない綺麗な色をしていて木の芽をついばむ様子がとても可愛らしく、もっと鳥の事を知りたくなりました。

会員の方は小さな質問にも豊富な知識でとても詳しく教えてくださって、とても勉強になりました。自然の中を鳥を探したり、さえずりを聞いたり、スコープで観察するのはとても気持ちが清々しく楽しい時間でした。最後に鳥合せのカードをいただき、今日出会った鳥を記録する楽しさも教えていただきました。

家に帰って早速野鳥図鑑を見てみました。スコープで見せていただいた鳥を改めて確認し調べることも楽しい作業であり、もっともっとたくさんの鳥に出会ってみたい気持ちです。

これから双眼鏡を用意してバードウォッチングを楽しんでいきたいです。また参加させていただきたく、どうぞ宜しくお願いいたします。

【記録された鳥】コゲラ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、ツグミ、スズメ、カワラヒワ、ウソ  
 以上14種

【参加者】今村三枝子、白田 正、大表順子、加納喜久江、加納美紀、北山政人、國本昌秀、栗林宏三、小鹿亜子、笹森繁明、佐藤 淳、佐藤珠江、佐藤直美、品川睦生、白澤昌彦、隼野章子、高橋宣子、竹中悦子、田中さちよ、田中志司、辻 雅司、畑 正輔、早坂泰夫、林真知子、原 美保、樋口孝城・陽子、福島 静、藤田由美、辺見敦子、前田美紀枝、松田史哉、松原寛直・敏子、明円克子、守屋信男・幸代、山本昌子、山本康裕、横山加奈子、吉田慶子、脇本文子  
 以上42名

【担当幹事】原 美保、横山加奈子

**ウトナイ湖**  
 2019. 3. 17

【記録された鳥】ヒシクイ、マガン、コブハクチョウ、コハクチョウ、オオハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、トビ、オジロワシ、オオワシ、オオタカ、ノスリ、コゲラ、オオアカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ  
 以上32種

【参加者】今村三枝子、岩井幸子、白田 正、大表順子、大垣 創、川端 純、北山政人、木本博之、國本昌秀、熊本進誠、栗林宏三、佐藤 淳・直美、佐藤香織、島崎康広、高橋貞夫、田中さちよ、千葉敏紀・みゆき、辻 雅司、畑 正輔、早坂泰夫、原 美保、藤吉 功・静子、村田恵一、吉田慶子、鷺田善幸  
 以上28名

【担当幹事】辻 雅司、鷺田善幸

**モエレ沼**  
 2019. 4. 14  
 札幌市北区 佐藤 珠江、札幌市中央区 林 真知子

昨年11月に愛護会の方に望遠鏡で野鳥を見せて頂き、美しさ、素敵さに魅了された初心者です。野鳥に興味を抱いたのは、八剣山でハヤブサの子育てを見てからです。その後、登山中に響く清々しい声に敏感になり、冬場に時々姿も見えるとますます愛おしくなりました。

市内で探鳥会がある事を知り、ほとんど何も知らない状態で参加させて頂き、鳥の多種多様性の豊かさに驚き、小鳥から猛禽類まで総てが必要だと学びました。また、雄が雌を魅きつける為に綺麗だという事は知っていましたが、繁殖時期には更に「繁殖羽」という美しい羽が生え、時期が終わると全体の色も薄れてくると教えて頂き、子孫を残す為の自然界の凄さを感じさせられました。囀りもその為の声だと知り、一生懸命生きていることに感動を重ねています。

今私達の中ではいろいろ心が動いている様です。宗谷地方の風車群が、シベリアから渡って来る大型の野鳥の飛行ルートと重なり、回っている風車の羽根は鳥には見えない為、事故死の一因になっている事、ハンターの一部がまだ鉛弾を使用し、鉛中毒で命を落とすオオワシなどが絶えない事、また大空をゆったりと羽ばたくオジロワシ、オオワシ、タンチョウ、シマフクロウなどを見てから、動物園にいる野鳥を見る事ができなくなったなど。

愛護：愛する事はできるようになったと思います。

護る為に今の私達にできる事は何か?などと。

## 野幌森林公園

2019. 4. 28

美唄市 高田 蒼翔 (たかた そうと)

とりあえず厳しい冬の山でも懸命に生きているたくさんの小鳥達にエールを送り続けたいと思っています。また、身近な所にも多くの留鳥や飛来する野鳥がいる事を知り、ますますいろいろな事が知りたくなっています。美しい高山植物に心を癒されていた私達ですが、野鳥が加わり、登山の楽しみが広がりました。

最後に、自分の望遠鏡を持参し、初心者私達に快く説明し、たくさんの美しい姿を見せて下さる会の皆様心から感謝しています。

【記録された鳥】 ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カワアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオバン、カモメ、トビ、オジロワシ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ノビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、オオジュリン、カワラバト (ドバト)

以上30種

【参加者】 秋山洋子、阿部悦子、荒井政昭、板谷輝美、伊藤敏正・千鶴子、今村三枝子、大表順子、大橋 晃、加藤博己・志穂、河合千賀子、川村宣子、北山政人、栗林宏三、栗林 了・香苗、小島俊幸、小谷内久江、近藤章子、佐藤珠江、佐藤直美、佐藤美梨、鈴木勝之、田中さちよ、田中志司子、千葉昌子、辻 雅司、富樫利恵、中田勝義、畑 正輔、早坂泰夫、林真知子、原 美保、樋口孝城・陽子、美頭佳範、福島 文、松原寛直・敏子、村木 元、本杉政司・朋子、守屋信男・幸代、門馬公生、山地みのり、横山加奈子、吉田慶子、吉見孝夫・紫乃

以上51名

【担当幹事】 北山政人、樋口孝城

## 宮 島 沼

2019. 4. 21

【記録された鳥】 ヒシクイ、マガン、シジュウカラガン、オオハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、スズガモ、カンムリカイツブリ、キジバト、アオサギ、トビ、オジロワシ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ニュウナイスズメ、カワラヒワ、アオジ

以上26種

【参加者】 秋山洋子、阿部真美、板谷輝美、今村三枝子、大表順子、岸野一法、岸谷美恵子、栗林宏三、小谷内久江、佐藤直美、佐藤ひろみ、品川睦生、鈴木勝之、高島均・明美、高田可南子・蒼翔・陽菜子、高橋良直、田中さちよ、田中 陽・雅子、千葉昌子、辻 雅司、長尾保秀・由美子、成田京子、西田洋一・三枝子・美緒、畑 正輔、早坂泰夫、原 美保、樋口孝城、本杉政司・朋子、守屋信男・幸代、吉田慶子

以上39名

【担当幹事】 佐藤ひろみ、栗林宏三

ぼくは、この春、兵庫県の神戸市から美唄市へひっこしてきた小学3年生です。神戸に住んでいた時から鳥が好きで、北海道でもたくさん見たいと思って、参加しました。

神戸の探鳥会と違うところは、鳥だけじゃなくて、植物もたくさん教えてもらえたことです。特にミズバショウは神戸では少ないので、たくさん咲いていておどろきました。ザゼンソウやエゾノリュウキンカなど見たことがない植物も見られました。

2つ目は生き物の種類がたくさんで、距離も近かったことです。駐車場の近くの池でみたマガモは、くちばしの先の色まで見られました。こんなに近くで見られたのは初めてです。フィールドスコープでのぞかせてもらったアオジは声も姿もきれいでした。バナナくらい黄色かったです。

歩きながら、鳥の事も色々教えてもらいました。ヒヨドリは南に行けば行くほどお腹が黒くなることを聞いて、北海道は雪がたくさん降るから白いのかなと思いました。

突然に静かな森に、「キヤーキヤーキヤー」とよくひびく声が聞こえてきました。ヤマゲラと教えてもらい、とても見たかったので、一所懸命に探したけれど見つかりませんでした。他にもヤブサメやコマドリと言った神戸では聞いたことのない鳥の声も教えてもらいました。枝と枝を行ったり来たりするハシブトガラやゴジュウカラはとてもかわいかったです。

次は沼の鳥を見ると聞いて、楽しみにしていたのですが、妹の面倒を見ていたお父さんが風邪でしんどくなり、帰らなければならなくて、とても残念でした。

また、次も参加して、もっともっと鳥を見たいです。色々親切に教えて頂いて本当にありがとうございました。

【記録された鳥】 マガモ、ハシビロガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、トビ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、ゴジュウカラ、キバシリ、クロツグミ、アカハラ、コマドリ、カワラヒワ、アオジ、オオジュリン

以上27種

【参加者】 青木あけみ、秋山洋子、阿部 徹、安保信雄、石井正訓、今村三枝子、大表順子、川村宣子、岸野一法、木下早季・きの、栗林宏三、小西美美枝、小谷内久江、近藤章子、佐藤隆男、佐藤珠江、佐藤直美、佐藤充江、佐藤美梨、三歩幸光、品川睦生、瀬戸敦史、高田可南子・蒼翔、高橋貞夫、田中さちよ、辻 雅司・方子、道場 優、富川 徹、長尾由美子、長野隆行、畑 正輔、早坂泰夫、樋口孝城、平田修二、辺見敦子、松原寛直、三輪節子、本杉政司・朋子、山本育子、山本康裕、横山加奈子、吉田慶子

以上46名

【担当幹事】 栗林宏三、畑 正輔



【野幌森林公園】

2019年7月14日(日)、9月15日(日)
野幌森林公園も7月と9月とではそれぞれ異なる趣があります。
大沢園地で昼食をとり、大沢口に戻るのは13:00ころになります。

- 集合: 野幌森林公園大沢口 9:00
交通: 夕鉄バス 新札幌駅発(文京台南町行)
「大沢公園入口」下車 徒歩5分
JRバス 新札幌駅発(文京台循環線)
「文京台南町」下車 徒歩5分

【石狩川河口】2019年8月18日(日)

石狩浜・河口で主にシギ・チドリ、草地ではホオアカやノビタキ等を楽しみます。はまなすの丘公園ビジターセンターの前から浜に出て河口まで、河口からは石狩川に沿って戻ります。正午近くに駐車場に戻って鳥合わせをし、センター内などで自由に昼食をとるようになります。

- 集合: はまなすの丘公園ビジターセンター 駐車場 9:30
交通: 中央バス 札幌ターミナル発(石狩行)
「石狩」下車、徒歩20分

【鶴川河口】2019年8月25日(日)

鶴川河口付近の自然干潟や人工干潟でのシギ・チドリを楽しみます。人口干潟付近で鳥合わせをし、自由解散となります。「四季の館」に戻って館内ロビーで昼食をとられる方が大半です。館内には食堂や売店もあります。

- 集合: むかわ温泉四季の館駐車場 9:45
交通: 道南バス 札幌駅前発または大谷地バスターミナル発(浦河行ペガサス号)「四季の館前」下車

【いしかり調整池】2019年9月8日(日)

この時期、いしかり調整池にやってくるシギ・チドリを主に観察します。また、水鳥たちを狙って猛禽類もやってきます。調整池の周りでの観察でほとんど移動はありません。11:30頃に鳥合わせを行い、自由解散となります。天気が良ければ管理棟の周りなどで昼食をとることになります。

- 集合: いしかり調整池駐車場 9:30
交通: 公共の交通機関はありません。

- ☆いずれの探鳥会も悪天候でない限り実施します。
☆昼食、雨具、観察用具、筆記用具などお持ちください。
☆問い合わせ 北海道自然保護協会 011-251-5465
10:00~16:00(土日、祝祭日を除く)

室蘭探鳥会のお知らせ(予告)

タカの渡りのシーズンに、室蘭市測量山周辺での探鳥会を実施いたします。この時期に室蘭を通過するタカの仲間(ハイタカ、オオタカ、ノスリなど)などを観察します。詳しくは、次号(野鳥だより197号)でお知らせいたします。

- 日時 10月20日(日)
集合 唐松平 9:30 11:30頃終了

鳥民だより

◆2019年度 野鳥写真展出展者・作品◆

- 五十嵐国勝... オオワシ、タンチョウ
出光 昭吉... エナガ(亜種シマエナガ)、アカゲラ
小堀 煌治... センダイムシクイ、オオソリハシシギ
齋藤 佑朱... エナガ(亜種シマエナガ)、キアシシギ
齋藤由美子... オグロシギ
佐伯 武美... ヤマセミ、ハリオアマツバメ
漆崎 修... バン、トウネン・ハマシギ
品川 睦生... タンチョウ、ヒヨドリ
高橋 良直... オオワシ、アオバト
田向 一彦... フクロウ2点
田中 克憲... オジロワシ、フクロウ
田中 陽... オジロワシ、ダイゼン
辻 雅司... ジュウイチ、ヒドリガモ・アメリカヒドリ
長野 隆行... アカゲラ、シノリガモ
中村 隆... コマドリ、ヤマセミ
中山 厚志... エナガ(亜種シマエナガ)
早坂 泰夫... コルリ、ルリビタキ
藤吉 功... ヤブサメ、コサメビタキ
吉川 健一... シノリガモ
吉中宏太郎... ホシムクドリ、トウネン

【新しく会員になられた方々】

- 鈴木 隆裕・美代子 (札幌市白石区)
佐藤 淳・直美・駿 (当別町)
野村 徳之・文子・堯利・優貴 (伊達市)
城石 一徹 (網走市)
川端 純 (札幌市豊平区)
大泉慎太郎 (千歳市)
小谷内久江 (札幌市北区)
正富 欣之 (釧路市)
池田美由紀 (札幌市南区)

【北海道野鳥愛護会】年会費 個人 2,000円、家族 3,000円(会計年度4月より)

郵便振替 02710-5-18287

〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・六階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465

HPのアドレス https://aigokai.org